### N P O

# 中帰連平和記念館

CHUKIREN HEIWAKINENKAN

## 「平和のための博物館市民ネットワーク」 オンラインで交流会 開催

当記念館も参加している「平和のため博物館ネットワーク」の全国交流会が、コロナのため開催出来ませんでしたが、安斎育郎さん(立命館大学名誉教授・同国際平和ミュージアム終身名誉館長)の提案で、3年ぶりに12月17、18日の両日、14時~17時のオンラインで開催され、当記念館からも芹沢事務局長が参加しました。

冒頭の安斎さんの「開会の辞」と司会の挨拶に続き、安田晴彦さん(シルバコンパス代表取締社長)による「AIによる語り部の継承の可能性一最新の『Talk With』の製作状況などについて」と題した45分の研修講演がありました。

休憩を挟んで、福島在行さん(市民ネットワーク運営委員)の「2020 - 2022 年の平和博物館・戦争関連展示施設に関する研究動向について」の報告の後、「立命館大学国際平

和ミュージアム」、「ひめゆり平和祈念資料館」、「中帰連平和記念館」、「満蒙開拓平和記念館」 の5団体から報告があり34人が参加しました。

その後、規約検討のための総会が開かれ安 斎運営委員会幹事から今までなかった「平和 のための博物館ネットワーク」の規約案が提 案され「名称、目的、活動、運営、財政、規 約の改廃」などについて検討し合意されまし た。

翌18日は「ホロコースト教育資料センター」、「女たちの戦争と平和資料館(wam)」、「第五福竜丸展示館」、栗山究さん(早大非常勤講師)、「すみだ郷土文化資料館」、「東京大空襲・戦災資料センター」の6団体から報告がありネット参加者は26人でした。その後、改めて総会を開き「事業報告、会計報告、運営委員選出」報告と、12人の運営委員が承認された。

#### 目 次

- ・「平和のための博物館」市民ネット ワークオンラインで交流会」 · · 1
- ・「受け継ぐ会・東京支部」
  - 20 周年集会 · · · · · 2
- ・「受け継ぐ会と記念館について」・・2
- 「「奔流」誌が来館取材 ……3
- ·「千葉県退職教職員組合」来館 · · · 3
- ・「中国と韓国から院生」来館・・・・・3
- ・「つくばみらい平和の会」来館・・・・4
- •「新日本婦人の会」来館 ……4
- ・連載「記念館資料室から」③ ……4
- 「桧山さんの油絵」⑤ · · · · · · 5
- •「かながわ歴史教育を
  - える市民の会」 .....6
- ・「受け継ぐ会・関西支部」総会 …… 6
- ・「一枚の写真」 ………6
- •「寄贈された本」から ………6

## 「受け継ぐ会・東京支部」 20周年集会

「撫順の奇蹟を受け継ぐ会・東京支部」の『20 周年集会』が 11 月 23 日、東京・阿佐ヶ谷の区立産業商工会館で開かれ、当記念館の松村理事長や芹沢事務局長なども参加しました。

平山百子支部長の開会の挨拶に続き、東京支部の立ち上げ前から長沼仁事務局長(故人)らと立ち上げに協力した大澤武司さん(福岡大学教授)が福岡から駆けつけ、当時の状況などを報告しました。

第一部は『20 年のあゆみと中帰連の方々の言葉を朗読』と題し、「小山一郎(東京)、髙橋哲朗(東京)、塚越正男(東京)、 湯浅謙(東京)、土屋芳雄(山形)、坂倉清(千葉)、永富博道(東京)」の皆さんから直接体験を聴いたり、本を読んだりしたそれぞれの中帰連の報告を会員が 10 分の割り当てで報告しました。

第二部は座談会『困難さを超えて伝えること』のテーマで、中帰連ご遺族の矢崎光晴さん、フリージャーナリストの太田直子さん、受け継ぐ会事務局長の保里十志男さんの皆さんが、今後の継承などを含めそれぞれの思いを話し合い、3時間の集会は17時過ぎに終了しました。







(左から、保里、太田、矢崎さん)

#### 「受け継ぐ会と記念館」について

「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」は中帰連解散後も中帰連の思いを伝えたいと、2002年4月の中帰連解散の翌日に立ち上げました。その後、北海道から九州まで11支部が立ち上がりました。

当時の「受け継ぐ会」は、主にご健在だった中帰連の皆様の聴き取りや、証言集会などをしていました。

その後、中帰連の皆様が亡くなると、ご 遺族が彼らの資料を処分してしまう傾向が 見られるようになりました。私たちは戦争 体験者ではなく、その「資料」を使って後 世に伝えなくてはなりません。

そこで彼らの資料の散逸を防ぎ収集するため、「受け継ぐ会」とは別に 2006 年 11 月に「中帰連平和記念館」を NPO として立ち上げましたが、「受け継ぐ会」とは日頃から協力関係にあります。

また、なぜ川越市笠幡の現地なのか?は、 初代理事長の仁木ふみ子(故人・元日教組 本部婦人部長)が近くに住んでいました。

当時、仁木宅近くのプレハブの農機具倉庫を、まだご健在だった中帰連の皆さんが「カンパ」を集め買って下さったのです。

故に、地代も家賃も要らず 16 年間この 運動が続けられました。またこの間、全国 のご皆様の「会費、カンパ」に支えられれ てきたことにも感謝申しあげます。

#### 「『奔流』誌が取材に来館」

「千曲川・信濃川復権の会」が発行している『奔流』(5000 部発行)に紹介したいと11月16日に、編集者の矢間秀次郎さんが、ライターの原田光子さんを同伴して来館しました。

矢間さんは以前「中帰連」の講演を聴いたことがあり、是非、取材・掲載したい思っていたとのことです。

昼過ぎに来館しプロジェクターで写真を 見ていただきながら中帰連・記念館の説明 の後に、映像も観て戴きました。多くの人 に「中帰連・記念館」を知ってもらえたら 嬉しく思います。



(矢間さんと原田さん)

#### 「千葉県退職教職員組合」来館

「千葉県退職教職員組合」の皆様 8 人が 11 月 5 日に来館下さいました。遠く館山から 片道 3 時間もかけて来館下さった方もおら れます。元教師の皆さんが熱心に話しを聞 いて下さり、その後に映像も視て戴き、館 内の資料の豊富さに感心され、2 時間余り 滞在下さり電車で帰られました。



#### 中国と韓国から院生来館

中国・上海交通大学の博士課程で「中帰連」を研究している台湾出真の呉孟儒さんと、韓国の成均館大学校の博士課程でやはり「中帰連」の研究をしている金秀容さんが、「中帰連資料」を求め12月に相次いで来館しました。

呉さんは修士課程の時の指導教官から 56 年の「特別軍事法廷・中帰連」のこと を聞き関心を持ったそうです。

また、金さんはシベリア抑留された韓国 人を調べているうちに、日本人がシベリア から中国へ戦犯として送られたことを知り 関心を持ったとのことです。

呉さんは5日に渡り、金さんも2日間来館し、閉館日に関わらず対応しました。『季刊中帰連』なども購入し、中帰連の会報『前へ前へ』などを調べていました。

研究者やジャーナリストへの「資料提供」 もこの記念館の目的の一つで、少しでも役 に立ったことを嬉しく思いました。



(「事務室」で資料を調べる呉さん)



(「閲覧室」で資料を調べる金さん)

#### 「つくばみらい平和の会」来館

過日「常総生協」の皆さんで来館した方が、改めて11月13日(日)に仲間と一緒に再来館下さいました。



#### 「新日本婦人の会」来館

2 年前にご夫婦で来館された方が、改めて11月27日に「新日本婦人の会・鴻巣支部」(埼玉)の女性4人で来館下さり、「知らなかった!」と感動し、カンパも戴き有難う御座いました!



連載 記念館資料室から 第30回 中国の平和主義に呼応する中帰連会員 石田隆至(「中帰連に学ぶ会」事務局)

『前へ前へ』19号は、1959年9月の発行 です。

10月1日に迫った「中華人民共和国建国1 0周年に心からのお祝いをおくる」という 長文の巻頭言が印象的な号です。

戦犯たちは帰国前に全国各地を参観し、 日本などの「帝国主義の侵略に喰い荒され た」中国が急速に発展するのを目の当たりにしていました。帰国後もますます発展する中国の経済、社会状況が冒頭で確認されています。だからこそ、「その6億人民の明るい歓喜とたからかな誇りに心からの尊敬とお祝いを捧げようとする私たちの胸も、限りない痛恨の涙、与えられた新しい生活の感謝とよろこびにふるえている」と原点に立ち返っています。

しかし、周囲にはまったく異なる中国観 も存在していました。「アメリカの台湾海 峡での挑発行動。チベット問題を利用しよ うとするインドの一部の動き。日米安保条 約を改定しようとする日本政府。そのほか ラオスに対するアメリカの働きかけなどご く最近でも、中国をめぐるアジアの動きは きびしく活発である。これらに対する中国 の断固たる態度をみて、えたりかしことば かり、平和五原則を自らふみ破った侵略的 軍国主義国家だとする見方が世間に流され 始めている。こういう手合に限って、しぶ しぶ中国の大発展を認めながら、その原因 は人民公社などに集中される共産主義の強 制労働の産物だと見るのである」。現在の 話かと見紛うほどです。

しかし、「あの戦争の中での自分を見つめる」機会を得た戦犯たちは、別の「真実」を見出していました。「私たちは、中国の大躍進と反帝、反植民主義の戦争政策に対する断固たる抵抗が、いわゆる『無責任な対にもの無主義』というデマとはまったく反対にもののをあることができるように、らの底からの平和の願いであることをにいる」。ひたすらに平和を願う人民当とをいるければ、憎き戦犯を人道的に扱い、過ちにしき合って反省させ、全員をするに返すことなどありえなかったことをいるいるからは誰よりもよく知っているからでもなければ、情きなどありえなかったことをがありたなかったことなどありえなかったことをがありたなかったことをがありたなかったことをがありたなかったことをがありたなかったことをがありたながありまく知っているから

す。

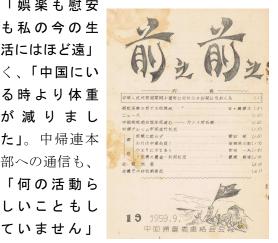
「私達の念願は、あくまでも真理に忠実 であること、人間という名に恥しくない人 間でありたいことである。中華人民共和国 を侵略者、無責任な軍国主義者と勝手にき めつけたうえに組みたてられた政策や条約 に甘んじることではない。(略)私たちは この信念は正しいと信じているし、将来も またこのように生きたいと決心している。 私たちのこのような毎日は小さいけれども 必ずや日米安保条約の土台を根本から掘り くずすのに役立つだろう。」

"中国は変わった"という見方は当時に もあり、中帰連はそれと戦ってきました。 世間がいかに言おうと、「真理」や「人間 性」に基づけば、誰が「策略」で動き、誰 が信頼に値するかは明白だったのです。

記事の後半では、地方支部の苦境と苦闘、 その中でも失われない会員の明るさが記さ れています。それが、新中国の平和政策の 帰結であることが、書き手にも編集者にも 共有されています。 高知の栗田保 (「苦境 に屈せず」) は臨時雇いも解雇され「毎夜 正月も祝祭日もなく1日も休みなく出社」 し、重病の妻と娘の看病もしながら、会費 納入に執着しています。伊藤長三郎のいる 秋田も会員が極端に少ない支部です(「お れは中連会員!」)。「鉱山に臨時夫として 入社して丸二年」で「食うのにさえやっと」、

「娯楽も慰安 も私の今の生 活にはほど遠」 く、「中国にい る時より体重 が減りまし た」。中帰連本 部への通信も、 「何の活動ら

ていません」



が、「それでも私は楽しいです」と伊藤は 記します。

「私は大きな希望はすてていません。私 はなにものにもかえがたい人間としての良 心、中連の一員であるという誇りをもって います。それだけに私の周囲は何かと変な 色目でみられ勝ちでこれとのだと苦闘は今 でも続いています。でも私はやがては皆が 私を見る目も変ると信じ、人間として常に 明るい人間関係の確立に努力しています」。 中国が変わらずに平和主義を貫いているこ とを希望に、伊藤は自らの生き方で呼応し ています。

#### 桧山高雄さんの油絵 ⑤ (中帰連福岡支部会員、元美術教師)



「昏 量」 (湖北省当陽県当陽門外 1943.7 月)

関東甲信越の範囲で、要請があれば 実費(高速、ガソリン代)でプロジェ クター持参で出張講演します。

#### 「かながわ歴史教育を考える市民の会」

今年4月に来館した「かながわ歴史教育を考える市民の会」の要請で、9月16日に横浜市石川町(元町)の「県立かながわろうどうプラザ」で、芹沢事務局長が出張講演しました。

参加者には元教師や地元市民運動家など 多くの皆さんがご参加下さいました。



#### 「受け継ぐ会・関西支部」総会

「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」関西支部の総会が、大阪駅前の「駅前第二ビル」で12月11日に開催されました。

総会の後、支部からの要請で来阪した芹沢事務局長が、中帰連埼玉支部の鈴木良雄さん(故人)のことを中心に話しました。

鈴木さんは埼玉県行田市で生まれ育ち、 2000 年の「女性国際法廷」で金子安次さんと共に、性暴力の加害証言をされました。 奥様から「そこまで言わなくもいいのでは?」と言われましたが、その後、奥様



(鈴木さんご夫妻、2003 年ご自宅で) は

ご理解しました。

私たちが鈴木さんの講演や聴き取りを纏め出版準備した処、ご子息から「止めて欲しい」との要望があり実現出来ませんでした。

#### 【一枚の写真】



(「記念館開館記念写真」 2006.11.3)

#### 「寄贈された本から」





『橋本勝さんの諷刺マンガ』(休載)

#### 『NPO 中帰連平和記念館』

〒 350-1175 埼玉県川越市笠幡 1948-6 TEL&FAX: 049-236-4711

E-mail: npo-kinenkan@nifty.com
HP: http://npo-chuukiren.jimdo.com/
ML: npo-kinenkan@freeml.com

郵便振込口座名「NPO 中帰連平和記念館」 振込口座 : 00150-6-315918

開館日:「水、土、日」(10:30~16:30)